

中小企業のためのSDGs経営

中小企業がなぜSDGsに取り組むのか？
SDGsを意識しない経営では、
生き残れない時代



中小企業にとってのリスク

中小企業にとって最大の「**リスク**」とは何でしょうか？それは、顧客から「**注文が減る**」、顧客が「**購入しなくなる**」ことではないでしょうか。取引先の要請に適合できないとそのリスクが広がり、今後の事業継続にも大きく影響する可能性があるため、注意を払わなければなりません。

取引先に対する要請

昨今、「ESG投資」（環境・社会・企業統治といった非財務情報を考慮した投資）で注目を浴びている脱炭素

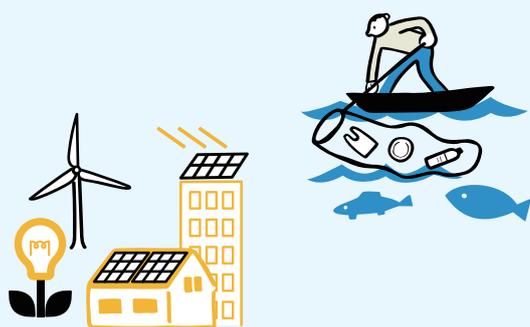
（ゴール13）。2022年4月より東証プライム市場上場企業は、CO₂排出量を含む気候変動関連の情報開示が求められています。大手自動車メーカーでは、**サプライチェーン全体における脱炭素化**を進めており、主要な取引先に対してCO₂排出量削減を要請しています。今後、「脱炭素への取引先選定の重要な基準になっていくと考えられます。

例えば、ホンダは2025年度から主要部品メーカーに対しCO₂排出量を2019年度比で毎年4%ずつ減らし2050年に実質ゼロにするよう要請

しています。トヨタや日産でも取引先に対して脱炭素の呼びかけを強化しており、取引先の“選別”にもつながりかねない状況となっています。

SDGsへの対応要請

大手企業等の取引先によるサプライチェーンの強化に向けた要請は、「脱炭素」のみならず、「人権問題」、「循環経済」、「ジェンダー」及び「脱プラスチック」など、多岐にわたっており、中小企業が事業を継続していくためにSDGsへの対応が迫られています。



中小企業がSDGsに
どう向き合うべきか、
SDGsは「**混迷の時代の羅針盤**」

“SDGsは顧客の要請で取り組まざるを得ない”と形ばかりの対応、消極的なスタンスであれば「SDGsが事業活動のお荷物」になりかねません。むしろ、**SDGsは、能動的に経営に活用すべきもの**で、取組によっては経営強化につながるものです。例えば、「社会課題とは、いわば顧客の先行ニー

ズ」と考え方をプラス面に転換することで、社会課題を先取り、解決する企業が出てきています。つまり、**中小企業も“SDGsの先取り”**で、サプライチェーンの中で事業活動を有利に展開する、企業成長の機会になります。また最近、中小企業のHPに「SDGs宣言」を目にすることが多くなりまし

た。その背景として、中小企業のメインバンクが、ESG投資の観点からSDGsに熱心な企業に積極的に融資する取組（P6）があり、地域企業に働きかけを強めています。先が見通せない時代、SDGsが中小企業の経営の羅針盤となることが期待されています。